

令和6年度 帯広市立緑園中学校 部活動基本方針

1. 部活動の目的

部活動は、生徒が生涯にわたってスポーツや文化、科学等に親しみ、社会の中でよりよく、心豊かに生きるための資質・能力が育まれるよう学校教育の一環として実施するものである。したがって、体力や技術の向上を目指すことのみでなく、適切な指導や支援によって、生徒同士や教師と生徒との好ましい人間関係の構築を図ったり、生徒自身が活動を通して自己肯定感を高めたりすることを目的とする。

2. 学校としての部活動の考え方

「帯広市立学校に係る部活動の方針（令和元年9月策定、令和6年4月改訂）」及び「北海道の部活動の在り方に関する方針（平成31年1月策定、令和6年3月改正）」に則り、帯広市立緑園中学校では、心身共に成長の著しい中学生期にふさわしい適切な指導を計画的に行うとともに、体罰や暴言、ハラスメントを根絶した安全な指導を行う。また、顧問のみならず、地域の外部人材部を活用することにより、指導体制の充実を図る。

3. 基本方針

(1) 設置する部活動（令和6年4月現在）

運動部・・・野球部（合同チーム）、サッカー部、男子ソフトテニス部、女子ソフトテニス部、陸上部、男子バスケットボール部、女子バスケットボール部、男子バレーボール部（合同チーム）、バドミントン部、卓球部、アイスホッケー部（合同チーム）
文化部・・・吹奏楽部、美術イラスト同好会

(2) 部活動に関する連絡・相談窓口

相談・要望は、下記の連絡先あてに提出することとする。

〒080-2472 帯広市西22条南4丁目2番地 帯広市立緑園中学校 TEL (0155) 36-7819 FAX (0155) 36-7829 担 当 阪本幸子郎（教頭）
--

(3) 活動時間および日数

①活動時間

- ・平日は2時間程度、休業日（土・日、祝日、長期休業中）は3時間程度とする。（ただし、活動時間には、移動・準備・片付け・休憩は含まない。また、週当たり平均11時間とする。）
- ・大会等で3時間以上になる場合は、大会前後3週間で、週当たり平均11時間となるように調整する。

②休養日

- ・週当たり2日以上（平日1日、週末（土・日）1日）設定する。
- ・週末または祝日に大会参加等で活動した場合は、休養日を他の日（週末または祝日）に振り替える。ただし、大会が連続する場合は、平日に振り替える。

③熱中症対策

- ・活動場所で暑さ指数（WBGT）が31以上になった場合、部活動を原則中止とする。

④各部顧問は、毎月の活動計画を作成し、生徒・保護者に知らせる。また、各部で作成した活動計画は、校長に提出し、校長は各部の活動について把握、指導、是非を行う。

⑤定期テスト（中間テスト、期末テスト、学年末テスト）実施日の3日前から、活動を原則

停止とする。

⑥体育館の使用については、次の時間帯において交代するものとする。なお、割り当てについては、体育館を使用する部活動顧問で調整する。

〈平 日〉 5時間授業の日（前半）15:00～17:00（放課後すぐ活動開始）
（後半）17:00～19:00（一旦帰宅し、再登校）

6時間授業の日（前半）16:00～17:30（放課後すぐ活動開始）
（後半）17:30～19:00（一旦帰宅し、再登校）

〈土・日、祝日、長期休業中〉 ①9:00 ②12:00 ③15:00（3交代）

※時期（季節）によって若干の時間変動があります。

（4）その他

①運動部の服装は、原則として体育授業時の服装とする。ただし、部の特性を考え、必要な服装や部内で指定されたものを着用する。

②携帯電話およびスマートフォンについては、部活動での使用を原則として禁止する。ただし、やむを得ない事情がある場合は、顧問にその旨を前もって伝え、許可を得ること。

4. 部活動への入部・退部について

（1）入部について

①2・3年生の部活動加入希望者は、保護者の承認のもと「部活動入部申込書」を担任もしくは部活動顧問に提出し、入部が認められる。1年生の途中から入部する場合も同様である。

②1年生の部活動加入希望者は、4月の仮入部期間を経て、保護者の承認のもと「部活動入部申込書」を担任もしくは部活動顧問に提出し、入部が認められる。

（2）退部について

①退部を希望する場合は、まずは保護者や顧問、担任と相談した後に、保護者の承認のもと「部活動退部届」を顧問に提出し、退部が完了する。

5. 指導・運営に係る体制について

（1）顧問・指導者の配置について

①生徒や顧問、指導者（部活動指導員、外部コーチ）の人数等を踏まえ、適切な数の部活動を設置する。

②長時間勤務の解消等の観点から、部活動ごとに複数の顧問を配置できるよう体制を整える。

（2）顧問・指導者の身分

①部活動は、勤務時間外の活動であるため、原則として、教員は必ずしも顧問となるものではない。

②全日本中学校体育連盟の大会開催基準に、「引率・監督は出場校（チーム）の校長・教員・部活動指導員、地域クラブ活動の代表（指導）者とする」と定められていることから、学校体制として校長が教員に顧問を依頼する。

③部活動の指導において、その種目を専門に経験してきているわけではないことを保護者に周知し理解を得る。